

「仮設住宅の再編等に係る子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業」 放課後子供教室の取組事例

地域全体で子どもを育てる放課後子ども教室推進事業(岩手県 二戸市)

取組の概要や経緯

子ども達が地域住民や異なる学年の子どもたちと触れあいながら体験・交流のできる居場所の確保を目指し実施してきた。
旧二戸市では平成16年度から実施。その後、徐々に開設場所を増やし平成21年度からは市内6カ所で開設している。



内容

市内小学校の1年～6年生の児童を対象としており、祝日・年末年始・長期休業期間・各施設の休館日を除く4月中旬から3月中旬の原則午後3～5時の時間で開設。各開設場所で2～3名程度の安全管理員を配置し、コーディネーターが全体の統括を行っている。子どもたちは、本を読んだり、学習をしたり、運動をしたりと自主的に活動し過ごしたり、地域の方たちと共に体験・交流活動を行うこともある。さらに、子どもたちの交流や見識を広げるため教室や学年の枠を越えて参加できる体験活動を実施している。また、安全管理員やコーディネーターを対象とした研修会を行い資質向上を図っている。



ポイント

- ①コーディネーターを中心に学校や安全管理員、施設管理者等と連携・情報共有し活動している。
- ②二戸市放課後子どもプラン指導者合同研修会を実施し、安全管理員の資質向上とともに児童クラブ関係者との連携・情報交換を行っている。

成果

・子どもたちは、自主的な活動を主にしながら、地域の貴重な人材でもある安全管理員の見守りや指導のもとで、季節ごとの行事などに応じたものづくりや遊びなどの体験活動を各種行っている。異なる学年と一緒に活動することで、交流が進み児童同士の関わりが多く見られるようになっている。
・親や先生以外の大人(安全管理員)が児童と関わることで、地域全体で子どもを育てるという意識を少しずつ持つことができている。
・コーディネーターを中心に学校や児童クラブ関係者等との交流、情報交換により、子どもたちを見守る体制づくりに役立っている。

主な取組

自然素材を活用した木の枝工作

笹を使っての七夕飾り作り

色画用紙を使ってハロウインの飾り作り

今後の方向性

・子どもが安心して活動できる居場所として幅広い体験活動や、交流を深める機会の充実を意識しながら子ども教室を実施する。
・安全管理員等の指導者にむけた研修を企画・提案し体験活動のアイディアの増加や多様な子どもたちに寄り添う見守り体制の充実につなげていきたい。